

秋田のみなさん こんにちは!

大橋鉄工秋田 株式会社

いつもの毎日を支える技術
日本のものづくりを受け継ぐ
人材を秋田から



秋田自動車道横手IC付近、横手第二工業団地内に位置する大橋鉄工秋田株式会社は、トヨタ自動車(株)のTier1(完成車メーカーに直接納入する一次サプライヤー)である大橋鉄工(株)(愛知県北名古屋市)の関連会社。トヨタ系Tier1としては県内初の進出であり、大橋鉄工にとっても国内初の生産拠点新設となった。2017年2月から稼働開始。トヨタ車においてシェア100%を誇るATパーキングロッドの生産を行っている。

国内初の生産拠点

「当社ではトヨタ系の車両を中心に様々な部品を製造しておりますが、中でもATパーキングロッドのシェアは100%。大規模災害時等においても国内での安定供給を維持するため、生産拠点を分散させる必要がありました」。

ATパーキングロッドとは、AT車のシフトをPレンジにしたときに、車輪が回転しないようにトランスミッション内部でロックするためのもの。確実に車を制止するためには欠かせない部品で、不良は決して許されない重要保安部品に位置付けられる。

「秋田は大地震を始めとした災害リスクが低く、北名古屋市にある本社との交通の便も意外に良い。懸念していた冬期間の物流も除雪がしっかりしているため問題ありません」。

設立当時は10名程度だった従業員も34名。横手市近郊の学生やAターン、別業種からの転職者等、様々なメンバーが集うが、長年培われた研修制度により、誰もが第一線で働くことのできる体制が整っている。2017年夏に秋田に赴任した山中業務執行役員も「秋田の人たちは仕事にしっかり取り組む真面目な方が多い。おかげで生産量も順調に推移しています」と笑顔を見せる。

秋田で自立するための体制整備に向けて

現在、秋田で生産しているのはATパーキングロッドのみだが、今後は本社同様に、他の部品の生産も開始する予定だ。

「アジア圏を見渡すとまだまだMT車が主流。これらのAT車への切り替わりを見据えた増産体制を整えなければいけません。そのためにもまず、秋田は部材の現地調達を含めた生産拠点としての自立が必須です」。

その第一歩となるのが年初に報じられた県内企業(東京端一、太平化成工業、秋田化学工業)との連携。工程ごとに各工場で作成し、県内供給網の構築を目指す。

“良いものづくりはひとづくりから”。北名古屋市で日本のものづくりを100年間支えてきた技術は今、手を取りあいながら、遠い秋田の土に根差し、息づこうとしている。



業務執行役員
山中 昭彦
Akihiko Yamanaka

大橋鉄工秋田 株式会社

〒013-0054
秋田県横手市柳田12-1
TEL 0182-23-6186
FAX 0182-23-6187
URL <http://www.ohashi-akita.co.jp/>

事業内容

自動車プレス部品の製造

